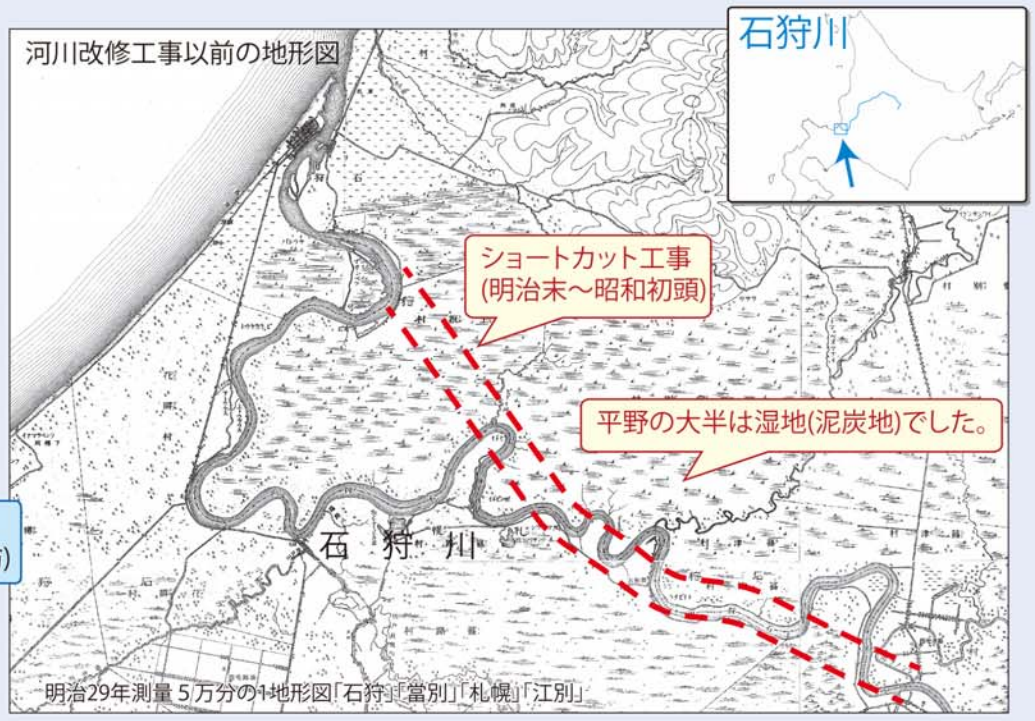
## 治水や開拓の歴史

石狩川は開拓初期の明治31(1898)年に大洪水を起こし、この洪水以降、石狩川の治水事業が始まりました。曲がりくねっていた河道は捷水路(ショートカット)工事により直線的な河道になり、同時に地下水位の低下により、後背湿地を中心に広がっていた泥炭地は土地改良が進み農地へ変化していきました。

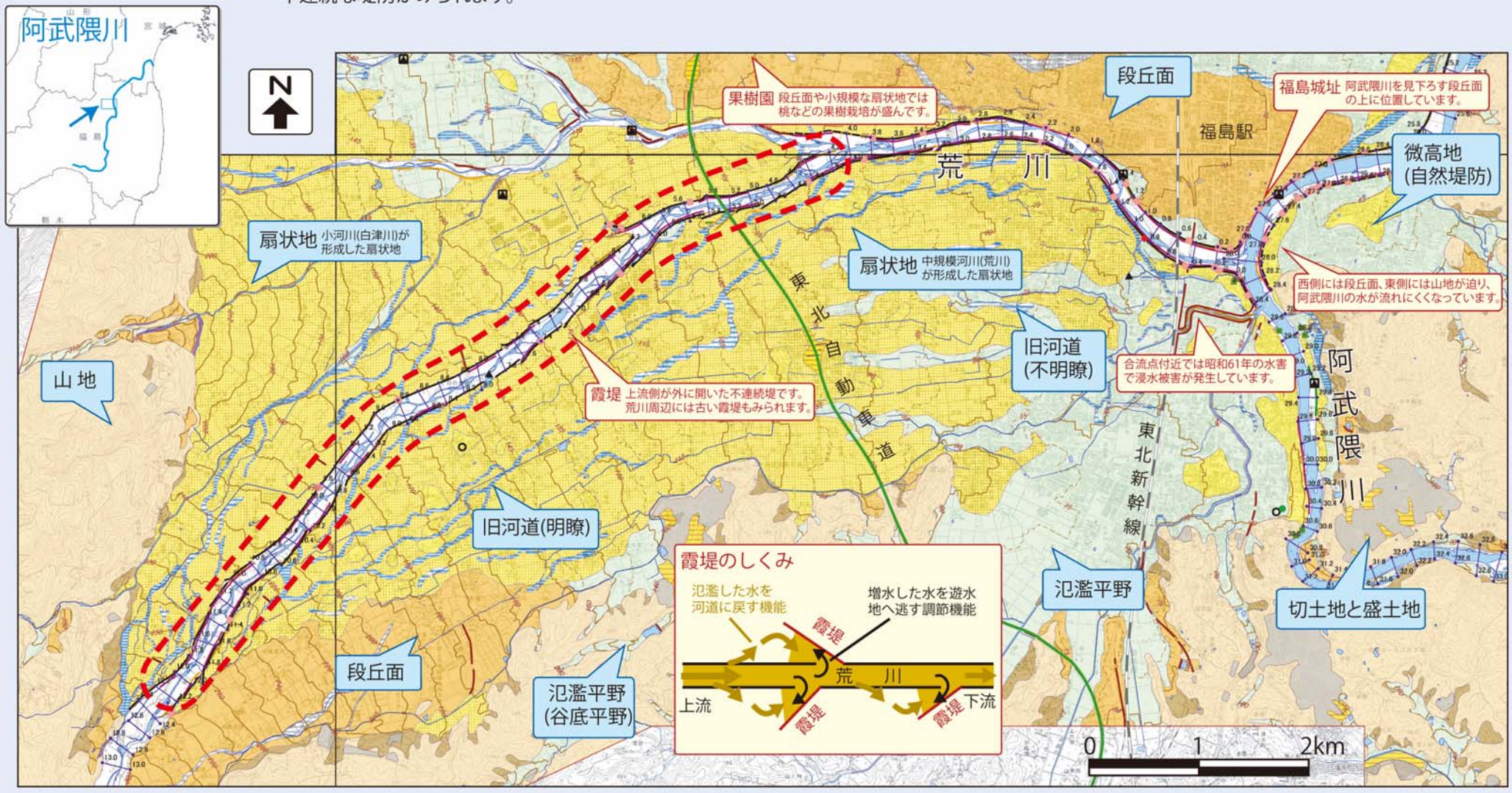



## その地域の地形・地質の概要や水運・治水との関わりを読み解くことができます。

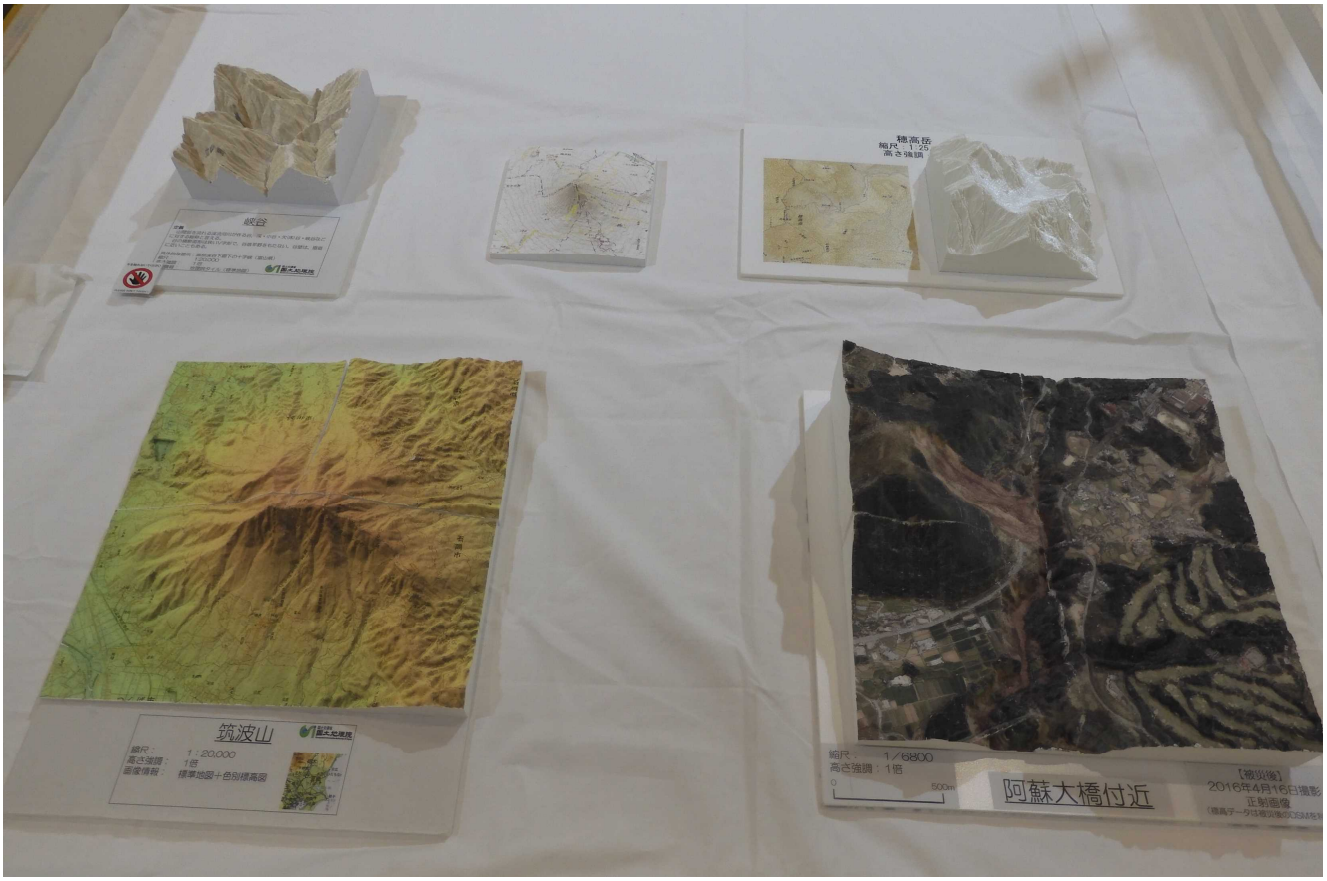
北上川は岩手・宮城の両県を流れ下る、幹川流路延長249kmの東北最大の大河川です。河口に位置する石巻は江戸時代に入って北上川が整備され水運が盛んになると、北上川流域の物資の集積地として栄え、明治時代になると北上運河が開削されました。明治43年の洪水以降、より治水対策を重視した河川改修が行われ、昭和初期までに新北上川の開削・整備が進められました。

## 扇状地の治水対策

阿武隈川水系の荒川は吾妻山系を源とし、福島市市街地の南側で阿武隈川と合流する河川ですが、福島盆地へ流れ出たところで扇状地を形成しています。扇状地には多くの旧河道がみられ、暴れ川であったことが見てとれます。荒川の堤防をみてみると、霞堤と呼ばれる上流側が外側に開いた不連続な堤防がみられます。



# 展示の様子




(2023.03)